

「ビジネスグリッドコンピューティングプロジェクト」(事後)  
 提言等に対する対処方針

提 言 等	対 処 方 針
<p>付加価値の高い製品開発・市場展開を速やかに行い、国際市場を獲得することにより、本事業において開発された革新的な技術について、市場競争力の高さを示していくことが今後期待される。そのためには、産業面で貢献できる技術開発に向けて、実証実験を実施することの意義は極めて大きく、また、市場競争で優位に立つ戦略性を持ち、標準に関する主導権を握ることも重要。</p> <p>サービスの視点からの IT リソースの効率的な運用・管理が必要となる次世代 IT インフラを検討していく中で、本事業の成果をアーキテクチャの中で活用し、我が国 IT 産業の競争力の強化につなげていくことが重要。</p> <p>今後のビジネスグリッド技術開発について「アプリケーションのエンドユーザに特別な手間や技術を要求しない」というインフラの活用形態をさらに志向し、ユーザニーズを意識した研究開発を目指すとともに、更なるユーザの獲得に向け努力することが必要。</p> <p>プロジェクト進行段階での技術情報の公開や、第三者によるニュートラルな情報発信をさらに増やしていくことが必要。</p>	<p>標準面では、GGF(Global Grid Forum)や SNIA(Storage Networking Industry Association)等において積極的な標準化活動を行ってきたが、さらに標準に関する主導権を取り、市場競争で優位に立つような戦略の基で活動を推進する。</p> <p>事業化面では、開発成果を取り込んだ製品の提供に目途が立ち、事業化の見通しが立っている。今後は、開発された基盤技術を基に、市場からのフィードバックを得つつ、SaaS(Software as a service)等に対応したサービス志向の事業展開等、事業強化につなげていく。特に、ハードウェア事業から SI(システムインテグレーション)・サービス提供事業にいたるビジネスの流れの中で、相互運用性などを考慮しつつ、要素技術を各社のビジネス戦略の中に位置付けていく。</p> <p>事業成果についての積極的な PR 活動、成果報告フォーラムの開催、各社製品の中での成果の明示、ユーザの取り込み等、更なる普及促進に向けて、コンソーシアム活動等の中で積極的に取り組んでいく。</p>